

授業科目名	現代芸術論C (ビジュアルアーツ)	担当教員名	高嶺格・大谷有花
授業科目区分	専門科目—専門共通科目—総合科目		
履修区分	必修科目	授業形態	講義
配当年次・学期	2・3年次前期 (25年度)	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ			
<p>現代の美術表現を理解する上で必要な基礎知識の習得を目標に制作者の立場を基軸とし時に鑑賞者の視点を交え20世紀後半から現在に至る現代芸術を理解する。現に流通する美術概念・解釈を鵜呑みにすることは危険であり20～21世紀の芸術のムーブメント等外側からの視点ではなく、美術家のもつ時代・文化・地域・地理的文脈を背景にする、作品概念の理解を深める。</p>			
授業の概要			
<p>前半は主としてパフォーマンス・メディアアートの制作と発表の経験とおして、現代美術としてのビジュアルアーツ表現全般に関しての歴史的意味、時間軸の変遷を通じた社会的意味、価値を教授し、後半は主として現代絵画の制作と発表の経験をとおして、現代美術としてのビジュアルアーツ表現全般に関しての社会的意味、価値を教授する。教員の美術家としての理念、その作品の成立過程と意味を中心に、多様な作家・作品を紹介しながら、現代芸術の理解と演習への導入を行う。</p>			
授業計画			
第1回：ガイダンス・ビジュアルアーツの概念と社会の関わり			
第2回：現代美術を知る (1) パフォーマンス・メディアアートの先駆者たち			
第3回：現代美術を知る (2) 発展するパフォーマンス・メディアアート			
第4回：現代美術を知る (3) 現在形のパフォーマンス・メディアアート			
第5回：現代美術を知る (4) プロジェクト型の作品／地域密着型の作品			
第6回：パフォーマンス作品における流通の仕組みと実践例			
第7回：ライブアートの社会的意味と価値			
第8回：まとめとディスカッション・パフォーマンス・メディアアートの視点から			
第9回：現代美術を知る (5) 現代絵画の巨匠たち			
第10回：現代美術を知る (6) 同時代の多様な平面作家とその作品			
第11回：現代美術を知る (7) 現代絵画制作者の理念と作品成立の過程			
第12回：現代美術を知る (8) 現代絵画制作者の活動と実践的な基礎知識			
第13回：美術業界の仕組みと現代絵画を主とする美術作品の流通経路			
第14回：現代絵画の社会的意味と価値			
第15回：まとめとディスカッション・現代絵画の視点から			
履修上の注意			
テキスト：適宜、指定する			
参考書・参考資料等：適宜、指定する			
学生に対する評価：出席と授業への取組30% レポート70%			

授業科目名	東洋美術史	担当教員名	井上 豪
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－美術理論・美術史科目		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	1・2年次前期(25年度)	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ 中国の古代美術を概観する。数千年の歴史をもつ中国美術は時代と共に姿を変え、周辺民族を巻き込んでアジア文化の基層を形作ってきた。古代作品の数々は、我々の「失われた原点」をそのまま体現した貴重な遺産といえよう。 本講座ではスライドによる作品紹介と共に、文献や考古資料を用いた文化史的背景の考察も重視する。各時代特有の美術表現と、それを生んだ古代社会の風土や社会の在り方を学び、美術表現の持つ「世界観」についての理解を目指したい。			
授業の概要 中国の古代美術を年代順に取り上げ個別に紹介する。スライドや配付資料を用いた作品解説だけでなく、考古学の知見に基づく遺跡の概要や文学史・哲学史から見た当時の文化的背景の考察なども重視、総合的な見地から美術表現とは何かを考えていきたい。			
授業計画 第1回 序～古代美術と現代社会 第2回 殷周青銅器 第3回 三星堆遺跡と長江文明 第4回 曾侯乙墓 第5回 始皇帝陵 第6回 兵馬俑坑 第7回 馬王堆漢墓 第8回 馬王堆帛画 第9回 満城漢墓 第10回 龍と雲気文 第11回 魏晋南北朝の書画と画論 第12回 石棺床と胡人たち 第13回 唐代壁画古墳 第14回 法門寺と正倉院 第15回 まとめ			
履修上の注意 講義は一回完結の「読み切り」形式で進める。欠席しても次回の講義に支障は出ないが、欠席した回の内容は取り返しが利かないので注意されたい。			
テキスト 内容に応じ毎回資料を作成、配付する。 書籍等のテキストは使用しない。			
参考書・参考資料等 必要に応じ講義の中で紹介する。			
学生に対する評価 試験成績 60 点以上を単位認定要件とし、授業態度と試験成績を加味して総合的に採点する。			

授業科目名	シルクロード図像学 1	担当教員名	井上 豪
授業科目区分	専門科目－専門共通科目－美術理論・美術史科目		
履修区分	選択科目	授業形態	講義
配当年次・学期	3・4年次前期(25年度)	単位数	2単位
授業の到達目標及びテーマ 東西文明の行き交う絹の道は、インドから東アジアへ向かう仏教美術の道としても重要である。古代シルクロードの美術は、インドをはじめペルシアや西洋など様々な要素が混じり合い、それらが渾然一体となって独特の世界観を形作ってきた。本講座では仏教美術を中心にガンダーラから中央アジアにかけて作例を取り上げ、ペルシアやギリシアなど各地の遺品にその源流を辿りながら図像変遷の過程を追っていく。広大なユーラシア大陸を舞台に展開した、壮大な文化交流の姿について解説する。			
授業の概要 仏教美術に見られる様々なモチーフを毎回取り上げて解説し、図像バリエーションとその意味について考察する。スライドを用いた図像観察と配付資料による文化的考察を並行し、多角的視点から古代美術を捉えていきたい。			
授業計画 第1回 ガイダンス 第2回 概説・シルクロードの遺跡と美術 第3回 ストーパーパから五重塔へ 第4回 如来の服制と僧侶の袈裟 第5回 菩薩の宝冠 第6回 梵天と帝釈天 第7回 神将の甲冑 第8回 邪鬼と崑崙奴 第9回 飛天の姿 第10回 極楽のイメージ 第11回 須弥山と崑崙山 第12回 風神の色々 第13回 仏教における龍 第14回 如意宝珠の形象 第15回 まとめ (定期試験)			
履修上の注意 講義は一回完結の「読み切り」形式で進める。欠席しても次回の講義に支障は出ないが、欠席した回の内容は取り返しが利かないので注意されたい。			
テキスト 内容に応じ毎回資料を作成、配付する。書籍等のテキストは使用しない。			
参考書・参考資料等 必要に応じ講義の中で紹介する。			
学生に対する評価 試験の成績に授業態度を加味し、授業への取り組み20%、試験成績80%として採点する。単位認定要件は100点満点で60点以上とする。			